

「異文化研究」カリキュラム開発

—SGH, 研究課題「異文化研究」実践報告—

研究部 高橋 栄一

平成26年度から始まった、本校のSGH（スーパーグローバルハイスクール）は、「研究開発単位Ⅰ グローバル・リーダー育成のための一貫したカリキュラム研究の開発」、「研究開発単位Ⅱ 課題研究における外部資源の活用方法の開発」、「研究開発単位Ⅲ グローバル・リーダー育成のための各教科の内容と方法の改善（教科のSGH化）」の三つの研究開発単位からなる。そのうち研究開発単位Ⅰには「地域課題研究」「異文化研究」「グローバル提案」「グローバル・キャリアパス」の四つの課題研究がある。本稿はこの課題研究のうち、昨年度後半に実施した「異文化研究」についての実践報告である。昨年度の「異文化研究」は、本校としては初めてとなる本格的な海外交流を実施した。そのため交流先の国立臺灣師範大学や国立臺灣師範大学附属高級中学校との連携協力のプロセスや連携内容なども集録した。

キーワード：スーパーグローバルハイスクール 異文化理解 海外研修 ラウンドテーブル

1. はじめに

金沢大学人間社会学域学校教育学部附属高等学校（以下、本校）は平成26年度から文部科学省が開始したスーパーグローバルハイスクール（以下、SGH）に指定された。指定期間は平成26年度より5年間である。本校のSGHは、次の三つの研究開発単位からなる。研究開発単位Ⅰは「グローバル・リーダー育成のための一貫したカリキュラム研究の開発」、研究開発単位Ⅱは「課題研究における外部資源の活用方法の開発」、研究開発単位Ⅲは「グローバル・リーダー育成のための各教科の内容と方法の改善（教科のSGH化）」の三つである。さらに研究開発単位Ⅰは「地域課題研究」「異文化研究」「グローバル提案」「グローバル・キャリアパス」の四つの課題研究で構成されている。「地域課題研究」と「異文化研究」は高校一年生で、「グローバル提案」は高校二年生で、「グローバル・キャリアパス」は三年生で実施され、昨年（2014）の新入生（68回生）から年次進行で実施されている。SGH指定一年目の昨年度は、前半は「地域課

題研究」を、後半は「異文化研究」を実施した。本稿では、このうち昨年度後半に実施した「異文化研究」についての実践をまとめ、その成果と課題について報告する。

2. 「異文化研究」の目的とねらい

「異文化研究」は年度前半に実施された「地域課題研究」の延長線上に位置付けられる。「地域課題研究」で培った身近な地域に対する問題意識の醸成と、実践を踏まえて身に付けた、課題発見や研究推進のノウハウなどを発展させ、よりグローバルな視点で思考するグローバルマインドを育むためのカリキュラムとして構想された。

グローバルマインドを育むために海外の高校生との交流は欠かせないと考えた。その結果、異文化交流は台湾師範大および台湾師範大学附属高級中学校を相手に行うことになった。台湾を選んだ理由は以下のとおりである。

現在の台湾はNIEsから先進国へ飛躍的に発展を

遂げつつあり、経済・社会は成熟し日本と類似した構造となってきた。近代化に伴う都市問題や交通問題・環境問題、地域格差など共通する課題も多い。また、日本と同じく資源小国であり、産業の成熟化によって現在のような加工貿易国から脱工業化社会へ大きく脱皮することが予想され、新たな産業社会の構築に向けて克服すべき課題も多い。日本はいち早く成熟化した立場から様々な課題解決の提案ができる。一方、内需による成長で発展してきた日本に比べ、当初から海外市場を睨んで経済戦略を行ってきた台湾は、国際化の視点では日本より進んでおり、日本が台湾から学ぶべき点も多い。

今般、石川の老舗温泉旅館が台北に開業し、石川流のおもてなしを台湾の人々に発信している。開業までには、言葉の問題、文化・慣習の相違などを超えるために多大な努力が払われた。台湾への直行便の増便によって、台湾から北陸に来る観光客も激増している。今後ますます台湾との交流が促進されるだろう。交流を活性化させ、ビジネスチャンスを拡大し、双方がWIN WINの関係を築き上げるためにも、文化の壁を越えて、両国がともに取り組むべき課題は尽きないであろう。

このような現状を踏まえ、「異文化研究」では、日本と台湾の文化・社会の比較研究を通して、互いに共通点・相違点を理解し、それらの背景をなす価値観の相違に気付くことを目的とした。さらには、共通する課題を発見し、次年度以降実施する「グローバル提案」におけるグローバルニーズのヒントを得ることをねらいとした。そのために、日本の状況と台湾の状況を事前調査し、留学生や台湾からの研修生と課題についてディスカッションを行った。また、実際に台湾に赴き、台湾師範大学附属高級中学校生徒とラウンドテーブル方式のディスカッションなどを実施し、共同調査を行ないながら課題を発見し、解決の方向性を探った。

この研究活動を通じて、日本と台湾の学生がとも

に学びあい、協力し合うことは、単なる異文化体験を超えた貴重な経験となり、複眼的・俯瞰的思考力を養いグローバルマインドを培うために欠かせない。また、現地の学生と協力することで、課題設定の質を高め、調査・研究内容の向上が期待できる。共同調査やラウンドテーブルを通して、英語によるコミュニケーション能力も高めることができ、この共同研究を通じて築かれた人的ネットワークは将来にわたって彼らを助け、グローバルな場で活躍する人材となることを促すことになるだろう。

3. 実施計画と評価計画

上記の目的とねらいを踏まえ、「異文化研究」の実施計画を以下のように策定した（表1参照）。

【11月～12月】

〔内容〕日台文化・社会比較 事前調査

〔方法〕・グループテーマ・個人テーマ設定…研究グループ（6～7人単位）を定め、それに基づき生徒個々が個人テーマを決める。

・国内調査…調査方法は、文献・インターネット、国内アンケート調査

・事前調査レポート作成、グループ内発表会

〔評価の観点〕

・テーマ設定の適切さ、・課題認識の適切さ、

・仮説・研究・調査方法の適切さ

【1月～2月】

〔内容〕日台文化・社会比較 現地調査準備

〔方法〕・台湾師範大教授・学生による台湾 Hour …台湾師範大学生とディスカッション、

・留学生との異文化交流事業

・現地調査計画書作成…台湾師範大学附属高級中学生に対するアンケート、事前調査

表 1 年間計画

b 月日		学 習 活 動
1 A	1 B・1 C	
10月30日 (金)		「異文化研究」オリエンテーション, 台湾事前学習, 台湾の歴史と地理・風土
11月11日 (火)	11月 7日 (金)	研究テーマ決定に向けて…KJ法による研究テーマの絞り込み 資料 1
11月18日 (火)	11月21日 (金)	研究テーマの決定とグループ作り
11月25日 (火)	11月21日 (金)	研究の論点および具体的な内容の考察
12月 2日 (火)	11月28日 (金)	台湾師範大生や附属高校生に対する質問事項の検討
12月16日 (火)		研究概要の作成, 論点の整理, 資料 2 台湾師範大生や附属高校生に対する質問事項整理
11月18日 (火)	12月19日 (金)	……各グループと師範大学性・師範大学附属高校生とのマッチング
1 月 9日 (金)		Taiwan hourに向けてのガイダンス, 資料 3 プレ・ディスカッションの準備,
1 月20日 (火)	1 月16日 (金)	プレ・ディスカッションの準備, 要点の図示 英語版の作成
2 月 3日 (火)	1 月23日 (金)	プレ・ディスカッションの準備, 要点の図示 英語版の完成
1 月27日 (火)		Taiwan hour 台湾師範大学 劉宇挺 教授による台湾の紹介授業
1 月29日 (木)	1 月30日 (金)	Taiwan hour 台湾師範大学生とのプレ・ディスカッション
1 月31日 (土)		Taiwan hour 台湾師範大学生との市内巡検, ディスカッション
2 月11日 (水)		Taiwan hour 台湾師範大学生との郊外巡検, ディスカッション
2 月10日 (火)	2 月13日 (金)	現地調査計画の立案…テーマに関連する企業や研究機関・公的機関などの訪問計画, 情報収集方法や収集場所を計画する。
2 月14日 (土)		Taiwan hour 台湾師範大学生との日本文化体験,
2 月24日 (火)	2 月20日 (金)	現地調査計画の完成
3 月12日 (木)		直前発表練習
3 月19日 (木)		台湾師範大学附属高級中等学校にてラウンドテーブル・ディスカッション
3 月20日 (金)		台湾師範大学生とともに台北市内巡検・共同調査
3 月21日 (土)		台湾師範大学生とともに台南市内巡検・講演
3 月 下旬		最終レポート完成
3 月28日 (土)		研究レポート発表プレゼン大会

〔評価の観点〕

【3月～春季休業中】

・交流活動における参加度, グループ活動
における協同性, 調査計画の適切さ

〔内容〕交流事業, 現地調査, 日台異文化研究ま
め

〔方法〕・台湾現地学習

- ・台湾師範大学附属高級中学校生徒とのディスカッション（ラウンドテーブル形式）
- ・台北フィールドワーク
- ・レポート作成
- ・発表会…研究グループごとのプレゼンテーション・ソフトを用いたプレゼンテーション。

〔評価の観点〕

- ・現地調査……調査内容の適切さ・深さ、調査の協同性
- ・交流活動における参加度……積極的にコミュニケーションできたか・自分の主張を正しく伝えることができたか、
- ・レポート・発表……提案内容の適切さ・深さ・明確さ。自らの生き方・在り方の変化やグローバル提案のヒントを得たか。
- ・外部資源の活用……台湾師範大交流活動を研究の深化に結び付けることができたか。

なお、授業評価は「地域課題研究」同様、点数による評価はなく、観点別評価シートを使い、各自、問題意識や意見を授業ごとに整理し記録していくポートフォリオをもとに、文章による評価を行った。その際、「知識・理解」は評価の目的ではなく、各自が学びや思考を深め、行動力の支えとなるものとして位置付け、「技能・表現」は、主に自己の整理と他者とのコミュニケーションの円滑化のためのものとして位置付けた。発表（口頭・紙面など）に対する生徒間の相互評価も重要なものとして位置付けた。また、交流事業や現地学習の際には、台湾師範大関係者の外部評価も重視した。

4. 台湾師範大学・附属中等学校との打ち合わせ

交流事業に先立ち、2014年8月5日（月）に本校教員と国立臺灣師範大学の担当者間で台北市内ホ

テルにて事前打ち合わせを行った。参加者は国立臺灣師範大学からは英語学系教授の張瓊惠、助理教授の梁孫傑の二人、金沢大学附属高校からはSGH委員で当該学年担任の高橋栄一教諭、金森久貴教諭の二名および通訳として假日旅行者股份有限公司の彭瑞蓮氏の5名である。

打ち合わせの内容は、以下の3点である。

- ① 台湾師範大学の学生を本校に招聘する案件について
- ② 本校生徒が師範大学or附属中学校を訪問する案件について
- ③ 本校生徒が師範大学生とともに市内フィールドワークを実施する案件について

それぞれ人数、日時、交流事業内容（Taiwan hour、巡検等）の概要、および各種予算・必要経費とその支出方法についておよそその内容を確認した。その結果、ほぼ本校が計画した当初の予定通りの事業ができることを確認・合意した。また、その際、今後の円滑な連絡のためには本校と台湾師範大および師範大附属高級中等学校の間を取り持つコーディネーターの任用が必要であることを合意した。

後日、師範大学から、必要な3人の現地コーディネーターをリクルートすることができた旨連絡があった。現地コーディネーターの主な役割分担は以下のとおりである。また、連絡業務記録は表2にまとめた。

全体の統括に関しては、台湾師範大英語科の劉宇挺助理教授が担当することとなった。劉先生は今回の交流事業の最大の協力者である。さらに日本語の英訳、英語の邦訳による連絡・調整には、台湾師範大大学院生の山口紘輝氏、師範大学生、師範大附中との連絡・調整には同じく師範大大学院生の蔡明嘉氏にお願いすることになった。

表2 現地コーディネーターの連絡業務記録

月	業 務 内 容
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・附属高校台湾現地学習の際の交流事業の日程調整 ・交流事業の内容検討 ・今後の連絡方法の調整等
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH事業における経費の確認 ・SGH台湾現地学習時の事業の細案検討
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH師範大生金沢訪問事業の細案検討 ・SGH師範大生金沢訪問事業の学生へのリクルート ・SGH師範大生金沢訪問事業の学生の選抜 ・SGH師範大生金沢訪問事業の経費の確認
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜した学生の紹介ビデオ作成、送付 ・師範大学附属中学校との連絡・調整 ・SGH台湾師範大金沢訪問事業の事務連絡・処理
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH台湾師範大金沢訪問事業の事務連絡・処理 ・師範大学附属中学校との調整 ・グループ学習のテーマ調整
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH台湾Hourの細案検討・調整 ・SGH市内・郊外巡検の細案検討・調整 ・研究テーマ、研究内容の検討・調整 ・師範大学生との連絡・調整 ・本校研究グループと師範大生とのマッチング ・台北市内フィールドワーク時サポーターのリクルートと選抜
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・師範大学附属中学校との連絡・調整
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ別の台湾現地のフィールドワークの細案検討 ・フィールドワーク時の訪問先の選定、連絡・調整
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・師範大学附属中学校でのラウンドテーブルのコーディネート ・現地フィールドワークのコーディネート ・異文化研究まとめの外部評価

5. 「異文化研究」授業実施記録

(1) 授業実践の概要

今年度の「異文化研究」では原則A組は火曜日5・6時間目、B・C組は金曜日5・6時間目に実施された。なお、3クラス同時開講をしないのは、コンピュータルームの使用制限を考慮してのことである。

実施概要を表1にまとめた。なお、表1中の「資料1」～「資料3」は授業で使用したワーキングペーパーである（後掲参照）。

(2) 台湾師範大学金沢訪問事業

本校のSGH事業と金沢大学学校教育学類の英語科が主管する交換留学生プログラムであるJASSO（日本学生支援機構）事業と統合して、1月26日（月）より2月14日（土）までの20日間、台湾師範大学の学生を6人招聘し、異文化研究のための様々な学習活動を行った。留学生招聘期間のうち1月26日（月）から30日（金）まで4泊5日が本校SGH事業で、それ以降2月14日までが金沢大学のJASSO事業という形式をとった。

JASSO事業は英語教育に関する交換留学プログラムであり、金沢大学での研修の他、実際に公立の小学校・中学校など日本の教育現場においても研修を行った。附属高校も実習授業の機会を提供するなどの研修協力をしながら、SGH事業にも協力してもらうなど、SGHとJASSOの有機的な連携を行った。

訪日した台湾師範大生は、洪毓涵（大学院2年）、王靖雯（大学院生1年）、楊昕純（2年）、許芳瑀（学部4年）、林易如（学部4年）、李盈萱（学部4年）の6人である。学部の2年生から大学院2年生までまちまちであった。多くの学生が将来的には英語の教師を目指している。日本語はほとんどできなかった。

台湾師範大の学生を招聘期間中には、師範大の先生2名に随伴していただき、SGH Taiwan Hourや市内巡検の際の協力を得ることができた。プログラム前半は劉宇挺助理教授、後半はGraeme Todd先生である。

期間中の実施された計画は後掲の〈資料4〉の通りである。本校が海外からの講師を招聘するのは初めての事でもあり、日台の価値観の相違や、SGH予算や謝金の運用方法の制限などに不案内なため、実

施計画の策定には、度重なる修正を迫られた。この計画実施に関しては、附属学校園事務部の多大なる協力と御配慮をいただいた。

この事業は、以下のプログラムで構成されている。SGH関連の(ア)SGH Taiwan Hour, (イ)プレ・ディスカッション, (ウ)Luncheon seminar, (エ)巡検プログラムとJASSOと連携したTeaching Practiceの4つである。ただし、今回のTeaching Practiceは純粋英語の授業の一環として実施した。

(ア) SGH Taiwan Hour

1時間目は、台湾師範大学助理教授の劉宇挺先生に最新台湾事情の講義をしていただいた。最近の流行や若者文化、台湾社会の長所や問題点など、ネットで簡単に調べられないような内容、異文化理解に繋がるようなトピックスを講義していただいた(写真1)。

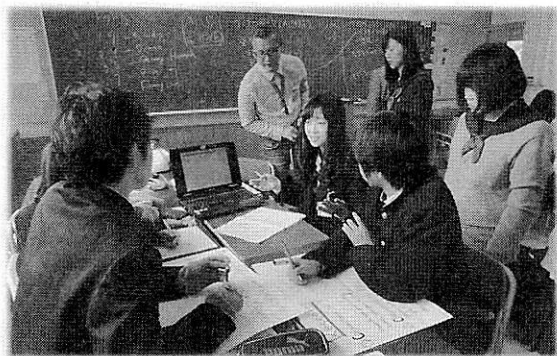


写真1 SGH Taiwan Hourの授業風景1

2, 3時間目も形式的に劉先生の授業であったが、実質はサポート役の師範大生が主体となって授業を進めた。各クラス学生1人が2つのグループのサポートについた。1つの班が発表しているとき、他の班は師範大附属高校生の立場で参加した。

最初にアイスブレイクをした後、生徒の台湾でのディスカッションのシミュレーションを行った。その際、師範大生には台湾での各グループのディスカッションがより実りあるものになるよう助言をもらった。特に、テーマに対する適切な調査方法や英

語の表現などを教えて頂いた。(写真2)



写真2 SGH Taiwan Hourの授業風景2

(イ) プレ・ディスカッション

「Taiwan Hour」のプレ・ディスカッションでは台湾師範大附属高級中学校で実施するラウンドテーブルディスカッションのシミュレーションとして行った。まず、本校生徒がA3の画用紙を用いて英語で発表し、英語で師範大学生とディスカッションした。2グループに台湾師範大学生1人が入った。1グループ発表時間15分、質疑応答時間15分で行った。発表しないグループのメンバーも質問しても良いことにした。(写真3・4)



写真3 プレ・ディスカッションの様子1

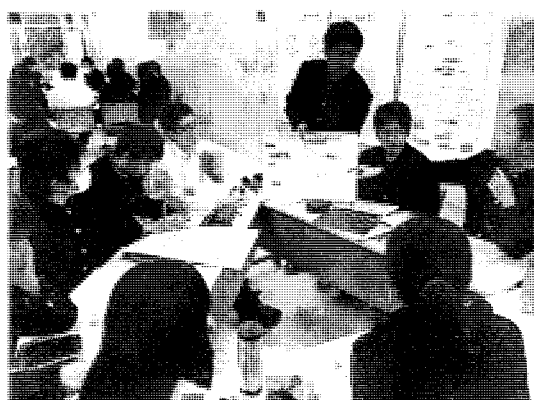


写真4 プレ・ディスカッションの様子2

発表に際しては、英語で書かれた3枚のフリップを用いた。(資料6)

資料6 英語によるフリップのテンプレート

Group○	Thema○○○○○
1	・ Aim
	・ Hypothesis

2. Research in Japan
①Circumstance in Japan
・ 箇条書き
・
・
②Circumstance in Taiwan

3. Question
・ 箇条書き
・
・
・
・

(ウ) Luncheon seminar

期間中、各クラス2日ずつ、師範大生と共に教室で昼食を食べながら交流した。その際、異文化比較研究に関する質疑応答なども行った。(写真5・6)



写真5 Luncheon seminar

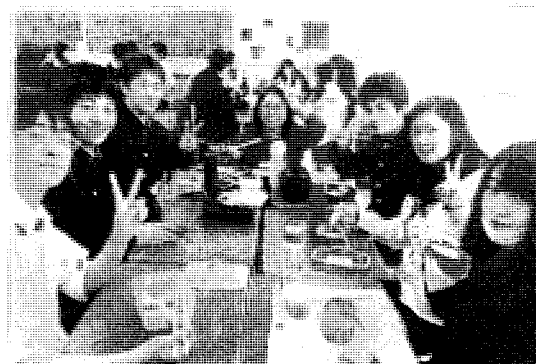


写真6 Luncheon seminar

(エ) 巡検プログラム

期間中、台湾師範大生が伝統文化・歴史・北陸の気候風土などに触れる機会を設けるため3回の巡検を企画した。その際、本校生徒から有志を募り、案内役として参加させ、本校生徒との交流を深めることを目的とした。また、サポートのために交換留学を希望している金沢大学の英語科の学生・院生にも参加してもらった。

① 市内巡検

日 時 1月31日(土) 13:30~17:00

内 容 本校生徒や金沢大学の学生の案内による金沢の市内巡検の後、伝統文化保存や観光開発や地域活性化・について英語でディスカッションした。本校生参

加者数は6名。

日 程 13:00 附属高校発～
13:30 金沢大学角間キャンパス発～
21世紀美術館～兼六園～金沢
城
17:00 金沢大学角間キャンパス着
17:30 附属高校着

② 郊外フィールドワーク（白川郷）

日 時 2月11日（水）9:30～15:00
内 容 本校生徒や金沢大学の学生さん達の案
内による白川郷の巡検の後、世界遺産
白川郷を例に挙げながら、日本の観光
資源開発や保持、地域開発の在り方
について英語でディスカッションした。
参加した生徒は8名。（写真7）

日 程 9:30 附属高校発
10:00 金沢大学角間キャンパス～ 白
川郷 ～ 昼食 ～ 白川郷～
15:00 金沢大学角間キャンパス着
15:30 附属高校着



写真7 白川郷巡検

③ 日本文化体験

日 時 2月14日（土）13:30～17:00
内 容 金沢の観光物産館で和菓子作り体験と
東山で金箔工芸体験を行い、伝統文化や伝統工
芸について附属高校生および師範大学生とともに

に英語によるディスカッションを行い台湾との
文化の違いについて理解を深めた。本校性は13
名参加した。（写真8）

日 程 13:00 附属高校発
13:20 金沢大学角間キャンパス発
13:45 観光物産館 和菓子作り体験
15:30 東山、金箔工芸体験
17:00 金沢駅 学生・生徒は解散
（解散後 小松空港 ～ 帰国）

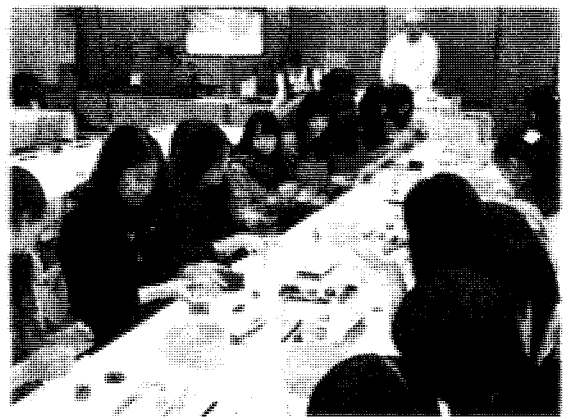


写真8 日本文化体験

(3) 金沢大学附属高校68回生台北訪問事業（3月18
日（水）～22日（日）（「台湾現地学習」）

何と言っても異文化研究の最大の企画は本校68回
生全員の台湾訪問である。一年生後半から入念に準
備を進めてきた総まとめとして、台湾に渡り、現地の
大学生や高校生とともに、異文化理解を進めるため
のラウンドテーブルや、現地フィールドワークを実
施した。その中で課題解決方法の相違点・共通点を
発見し、より深い理解に基づいた多文化共生への手
がかりを探ろうというものであった。その際、環境、
社会、経済などラウンドテーブルのテーマやディス
カッションの内容を事前交流により相方向で準備を
進めた。また、現地でのフィールドワークでは、師
範大生の協力を得て、市中に飛び出し、テーマと関
連する現地調査やアンケート調査を実施。より密度
の濃い探究活動を実現し、効果的な異文化理解につ

なげようというものであった。68回生の台湾現地学習の日程は以下のとおりである。

〈日程〉

月日	日 程	備考
3月18日 (水)	金沢—小松——桃園—台北	台北泊
3月19日 (木)	午前：台湾師範大学生および同附属高級中等学校生とのラウンドテーブル・ディスカッション。 午後：台北郊外少数民族文化探究・視察 …多文化共生への手がかりを探る	台北泊
3月20日 (金)	終日：台湾師範大学生とともに、市内フィールドワーク共同調査・企業・研究機関・公的機関訪問。	台北泊
3月21日 (土)	終日：台南にて熱帯地域の観察を行い、開発・環境保全等、環境共生方法を探求する。	台北泊
3月22日 (日)	台北—桃園—小松—金沢	

参加者 生徒一年生全員125名 引率教員6名

(ア) ラウンドテーブル

3月19日に台湾師範大学附属高級中学校に着くとすぐに、歓迎のセレモニーをして頂いた。中国式楽団による合奏(写真9)の後、台湾師範大附属中からは校長先生、金沢大学附属高校からは旅行団の団長である高橋が挨拶とプレゼント交換を行った。

その後、師範大附中生の案内で、事前に4つに分けてあったグループ毎に5階の各会場(ラボ)に向

かった(写真10)。



写真10 各ラボに案内される

4つのカテゴリの区分けは、師範大附属中の提案によった。会場(ラボ)は理科室(物理室・化学室・生物室・地学室)を利用して設定されていた。実験台を囲んで座ったが、ラウンドテーブルをしやすいと考えられており、師範大側の配慮が窺われた。

4つのカテゴリ分けは以下のとおりである。

- ・ Team A Subculture and Entertainment
- ・ Team B Education and Food Culture
- ・ Team C Law, society and transportation
- ・ Team D Value and Superstition

各カテゴリは7つまたは8つのグループで構成され、各グループ本校生徒4名+師範大附中2名+師範大学生1名から編成されている(写真11・12)。4つのカテゴリと各グループのテーマと参加者については後掲の資料6に示した。



写真9 熱烈歓迎 臺灣師範大附属高級中学校にて

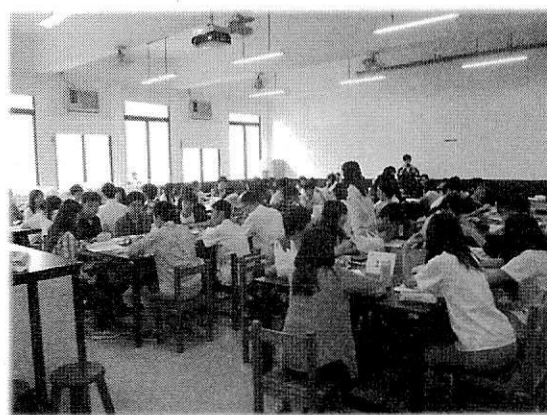


写真11 各ラボの様子1



写真12 各ラボの様子2

各ラボでは開始のあいさつの後、グループ毎にはアイスブレイクの自己紹介とプレゼント交換を行った。その後、互いの調査内容をあらかじめ準備したフリップなどを利用して発表し合った。各グループのファシリテーターには師範大学生がたった。

(写真13・14・15・16)

双方の学校の発表の後、グループでの話し合いが行われた。当初は、文化の違いやその原因など異文化理解の深層まで迫るような話し合いができればと考えたこともあったが、双方ともに母国語ではなく、あまりハードルを上げるのも却って話し合いを停滞させる懸念を感じた。そこで、双方の主張の共通点と異質点をまとめるのを目標にした。実際にやってみて、予想したとおり準備した内容の説明はかなり上手くできていたが、自由な話し合いの時間帯では、必ずしも活発な意見交換が行われたとは言い難いグループも散見された。しかしながら、討論が進むうちに徐々に打ち解けて、活発な活動ができるようになり、最後はどのグループも共働してまとめの作業を行うことができた。(写真17)

その後、各ラボではグループ後ごとの成果を共働で発表した。(写真18～24)

交流終了後、相手型の師範大附属中学校からも、今回の交流事業に対し、その多大なる成果について賞賛の声が聞け、次年度以降も是非交流を深めたい意向が示された。



写真13 本校生による日本での調査結果の発表1

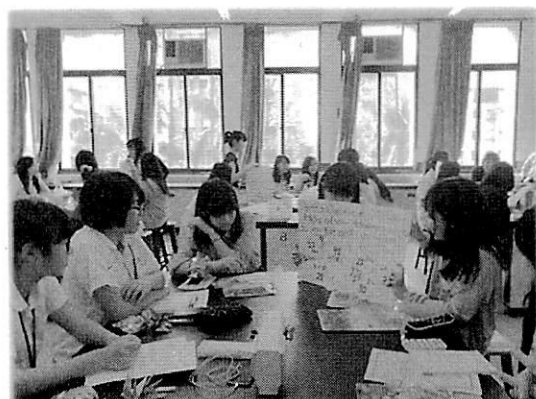


写真14 本校生による日本での調査結果の発表2

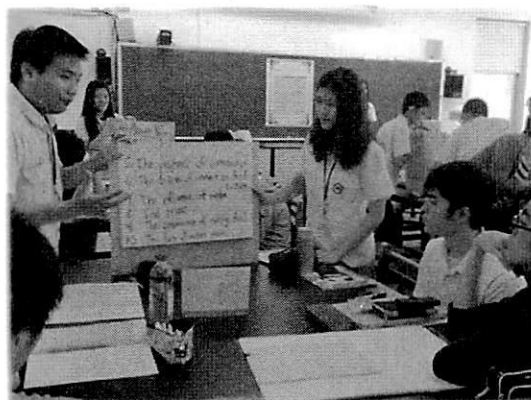


写真15 台湾師範大附属生による発表1



写真16 台湾師範大附属生による発表2



写真17 グループ毎の話し合い

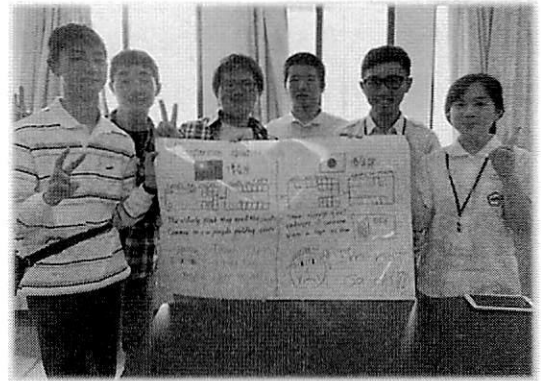


写真21 師範大附属生徒金沢大学附属生との共同成果 1

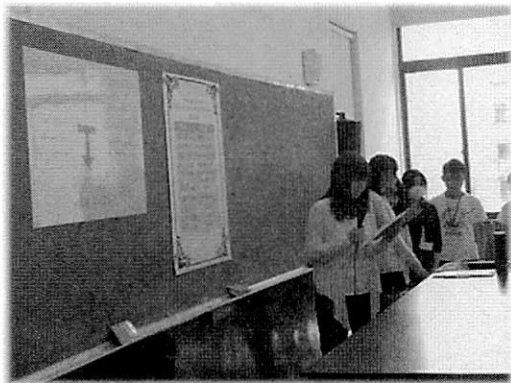


写真18 グループ毎のまとめと発表 1



写真22 師範大附属生徒金沢大学附属生との共同成果 2

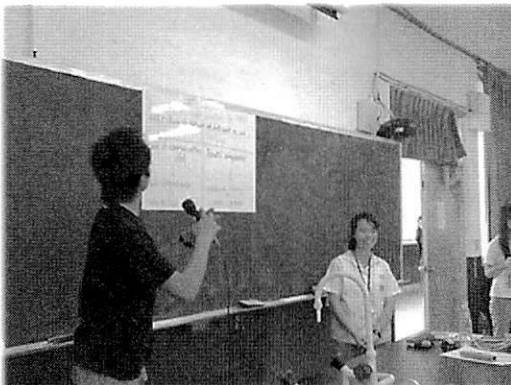


写真19 グループ毎のまとめと発表 2



写真23 師範大附属生徒金沢大学附属生との共同成果 3

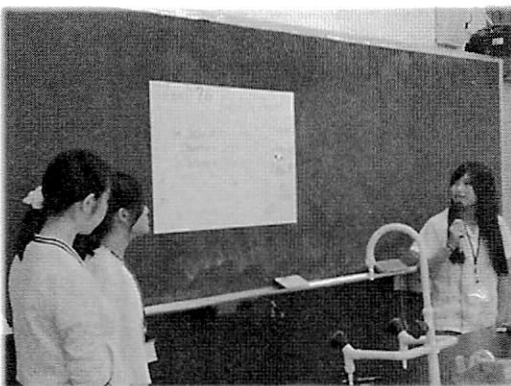


写真20 グループ毎のまとめと発表 3



写真24 師範大附属生徒金沢大学附属生との共同成果 4

(4) 台湾市内調査

前日に引き続き3月20日（金）は市販大学の学生と市内調査に出かけた。台北駅のホールに集合し、前日のラウンドテーブルでファシリテーターをしていただいた大学生と再会した。（写真25・26）



写真25 台北駅にグループごとに集合



写真26 師範大生との合流

師範大生と再開した後は、昨日の話し合いを考慮し、市内調査の予定などを再確認した（写真27・28）。確認後、各グループは市内調査に散っていった。

市内調査中の様子は生徒の記録や写真からしかうかがい知ることはできないが、最終発表を見る限りほとんどのグループが順調に調査を進めることができたようである。前日のラウンドテーブルの際に研究の目的や調査方法について周知されていたため、学生のサポートも的確であったのではないかと考えられる。その意味で、ラウンドテーブルと現地調査は有機的に結びついていたと言えるだろう。



写真27 調査の打ち合わせの様子1



写真28 調査の打ち合わせの様子2



写真29 師範大生とともに市内アンケート調査の様子



写真30 協力していただいた台湾師範大学英語科の学生達29名

(ウ) 台南講師派遣事業

3月21日(土)は、台湾新幹線で台南に向い、郊外のクリークでマングローブ林の観察を行った(写真31)。周辺はかつてのエビの養殖池が散在しており、今では東南アジアに拠点が移ってしまったが、台湾がエビ養殖の発祥地であることを窺わせた。



写真31 台南マングローブクルーズ

昼食時には、国立高雄第一科技大学の許宏徳博士にお越しいただき、台湾の気候風土や地帯構造を簡明に解説していただいた(写真32)。博士は日本への留学経験もあり流暢な日本語での講演となった。台湾の自然環境や産業基盤、エネルギー安定供給と原子力発電の問題、さらに開発と保全の問題など、現在、台湾が抱えている様々な環境問題について理解を深めることができた。

この時、本校の卒業生で台湾在住の郭 祥子氏にもお話を伺うことができた。氏は日台・日中・韓台の観光産業における近年の動向や、今後の東アジアを取り巻く経済連携についてお話くださった。今後、国際舞台での活躍を目指す生徒にとって、グローバルマインドを高揚させるために非常に有効な刺激を得ることができた。



写真32 国立高雄第一科技大学の許宏徳 博士

(4) 異文化研究 グループ発表(3月28日)

台湾現地学習から帰国してすぐに、現地調査の結果をまとめ、異文化研究の最終発表会を実施した。評価方法・基準は以下のとおりで、評価用紙を用い相互評価をさせた(資料7)。

① 究目的・方法の適切さ

…研究目的と分析の視点・研究方法が明確であるか。

② 研究内容(論理性・説得力)

…研究方法に則った適切な調査・情報収集が出来ているか。

…収集した情報に基づき、客観的な分析、まとめができるか。

③ プレゼンの適確さ(表現力)

…スライドの見易さ。説明方法や話し方、声が聞き易いか。

④ チームワーク(協働性)

…役割分担…仕事が均等に割り振られているか。・互いに助け、補い合っているか。

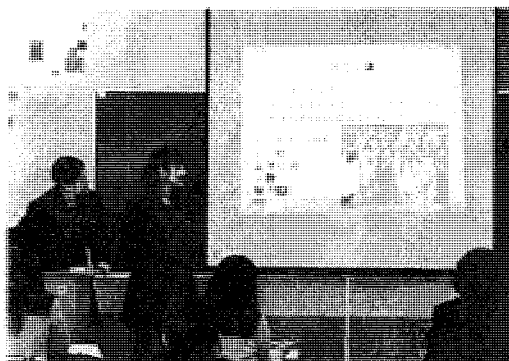


写真33 最終プレゼンの様子1

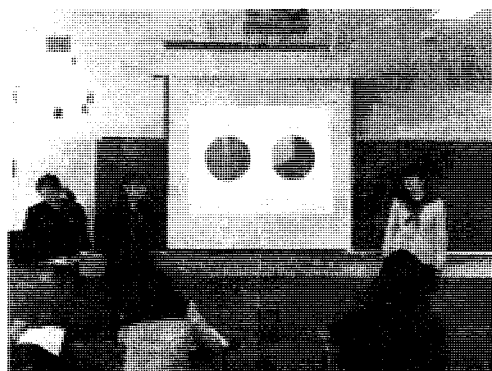


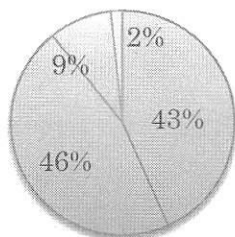
写真34 最終プレゼンの様子1

6. 「異文化研究－日台比較文化－」について

－アンケート集計結果－

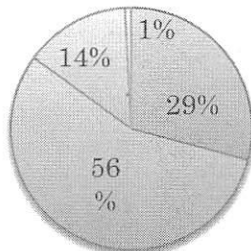
① 「異文化研究」に進んで（積極的に）参加することができましたか。

- ① 十分進んで参加することができた。
- ② おおむね進んで参加することができた。
- ③ あまり進んで参加することができなかった。
- ④ 進んで参加することができなかった。



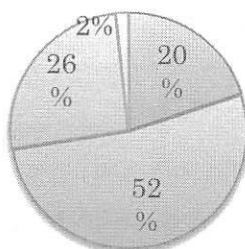
② 「異文化研究」で日台の文化の相違点や共通点を比較するのに適切な課題を発見できましたか。

- ① 十分適切な課題を発見できた。
- ② おおむね適切な課題を発見できた。
- ③ 課題は必ずしも適切ではなかった。
- ④ 課題は適切でなかった。



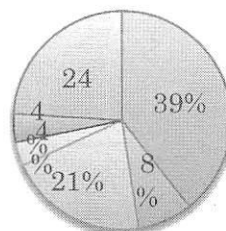
③ 「異文化研究」を計画的に進めることができましたか。

- ① 十分計画的に進めることができた。
- ② おおむね計画的に進めることができた。
- ③ あまり計画的に進めることができなかった。
- ④ 計画的に進めることができなかった。



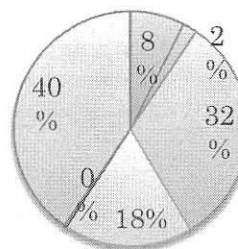
④ 「異文化研究」の情報は国内でどのように得ましたか。（複数回答）

- ① インターネット
- ② 文献
- ③ アンケート
- ④ 体験・見学
- ⑤ 日本人からの聞き取り
- ⑥ 台湾師範大学生とのディスカッション



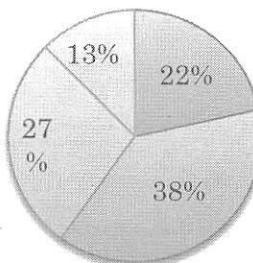
⑤ 「異文化研究」の情報は海外（台湾）でどのように得ましたか。（複数回答）

- ① インターネット
- ② 文献
- ③ アンケート
- ④ 体験・見学
- ⑤ 日本人からの聞き取り
- ⑥ 台湾の人々からの聞き取り（台湾師範大学生・同附属中 学生を含む）



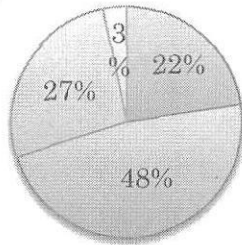
⑥ 台湾師範大学生が本校に来校した「Taiwan Hour」（劉先生の講義，プレ発表，ランチョンセミナー）は「異文化研究」に役立ちましたか。

- ① 十分に役立った。
- ② おおむね役立った。
- ③ 少しは役立だった。
- ④ 役立たなかった。



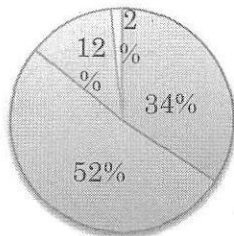
7 「台湾現地学習」におけるラウンドテーブル・ディスカッションで、台湾師範大学学生や同附属高級中学生と英語によるコミュニケーション（非言語ツールも含めて）ができたか

- ① 十分にコミュニケーションできた。
- ② おおむねコミュニケーションできた。
- ③ 少しはコミュニケーションできた。
- ④ コミュニケーションできなかった。



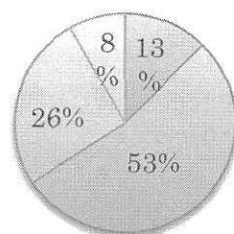
8 「台湾現地学習」におけるラウンドテーブル・ディスカッションやフィールドワークによって、「異文化研究」を深めることができましたか。

- ① 十分に深めることができた。
- ② おおむね深めることができた。
- ③ 少しは深めることができた。
- ④ 深めることはできなかった。



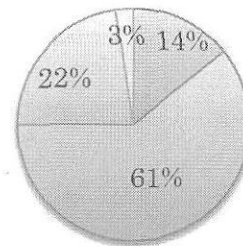
9 「異文化研究」において、質の高いプレゼンテーションができましたか。

- ① 十分できた。
- ② おおむねできた。
- ③ 少しはできた。
- ④ ほとんどできなかった。



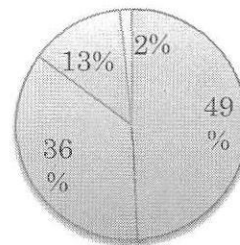
10 「異文化研究」で、自分たちの主張を論理的にまとめることができましたか。

- ① 十分できた。
- ② おおむねできた。
- ③ 少しはできた。
- ④ ほとんどできなかった。



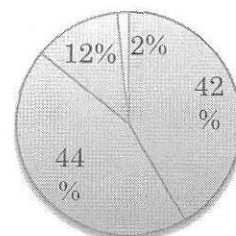
11 「異文化研究」で、互いに助け合い、刺激しあい、他者（本校生徒・台湾師範大学生・師範代附属高級中学生）に学ぶところがありましたか。

- ① 十分あった。
- ② おおむねあった。
- ③ 少しはあった。
- ④ ほとんどなかった。



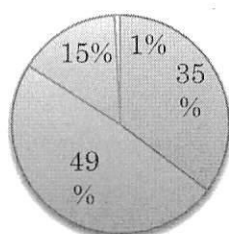
12 「異文化研究」を通して、「台湾と日本の文化の違い」の認識を深めることができましたか。

- ① 十分できた。
- ② おおむねできた。
- ③ 少しはできた。
- ④ ほとんどできなかった。



13 「異文化研究」を通して、グローバルな視野が広がりましたか。

- ① かなり高まった。
- ② おおむね高まった。
- ③ 少しは高まった。
- ④ ほとんど高まらなかった。



7. 成果と今後の課題

(1) 成果

アンケート結果からは、異文化研究の当初のねらい通り、日本と台湾の学生がともに学びあい、協力し合うことにより、単なる異文化体験を超えた貴重な経験をしている様子が見えてくる。現地の学生と協力することで、課題設定の質を高め、調査・研究内容が向上したと考えることができる。また、共同調査やラウンドテーブルを通して、英語によるコミュニケーション能力も高めることができ、グローバルな視野で物事を考える姿勢もできてきたことがわかる。

(2) 今後の課題

- ① 国内的課題…生徒の英語力をどう向上させるか
台湾師範大附属高級中が高校生との英語力は本校をはるかに凌いでいる。台湾側は2年生が主、本校が高校1年生であるため、その差は当然ではある。が、より実り多き交流事業にするためには、その差をどのように埋めていくのが重要な課題であろう。とほいうものの本校では特に英語単位数を増加しておらず、現カリキュラムの中で対応せざるを得ない。今後、英語が実施しているSGH化のグローバルディスカッションとの連関を考慮し、

効率よく英語の力を身に付けさせる工夫が望まれる。

- ② 対外的課題…より質の高い交流事業にするにはどうするか

質の高い交流事業を実施する際、現地案内大学生の質を確保できるかが重要な要件であろう。今回、現地では30名の大学生の協力を得ることができ、おおむね、本交流事業の趣旨を把握し、積極的に協力していただいた。しかし、師範大学の英語科の学生のみから全員をリクルートするのはかなりの無理をお願いすることになり、中には十分趣旨を理解しないままに参加した学生も僅かだだったのも事実である。今後も交流事業の継続性およびより質の高い交流事業を実施するには、まず、現地でのコーディネーターを確保することが重要であろう。そして、台湾師範大学や附属高校との連絡連携をより密に行うことが必須であろう。事業の継続性を担保するためにも、現地でのコーディネーターの役割は小さくはないであろう。コーディネーターを通じ極力早い段階での台湾側との連絡を密にしていけることが望まれる。

今般、実験的に生徒の希望に沿ったものに研究テーマしたが、なかにはディスカッションしにくいテーマや、街頭調査がしにくいテーマがなかったわけではない。次年度以降は、テーマ設定の段階から台湾側と密に連絡を取り合い、より意義あるテーマを選ぶ工夫が望まれる。

- ③ その他

アクティブラーニングの評価基準に関しては、ルーブリックの早期作成が待たれるところである。また、2年生で実施するグローバル提案にどのように結びつけていくかなど、いくつかの課題が散見される。次年度はこの反省を踏まえてより充実した異文化研究を目指したい。

(研究部 高橋栄一)

資料1

「異文化研究」テーマ決定に向けて

2014年11月7日

■本日の目標

・KJ法を用い異文化比較に相応しいテーマを選び、原則4人or5人のグループを10作る。

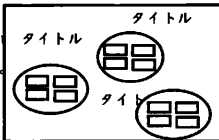
■本日の作業手順

(1) KJ法で、自由に「異文化研究」に相応しいテーマを出し合う。(20分)

※ テーマについては、できるだけ、是非(明確な意見の対立)があり、議論しやすい形で提示すること。

※ 突き詰めていけば、価値観の差異にまで及ぶような深い問題であるのテーマとしては望まし

※ タブレットで情報を得ながらやってもよい。



(2) 同じ範疇のものをグルーピングしてカテゴリ別にタイトルをつける。(15分)

(3) 班毎にカテゴリ3つを選び、それぞれの具体的なテーマを一つずつ選び、ホワイトボードにまとめる。(10分9)

(4) ホワイトボードを提示しながら、班毎に発表する。(15分)
※ホワイトボードは縦書きに使うこと。

(5) カテゴリやテーマを整理する。黒板を使って担当教師が整理する。

(6) グループとテーマの決定。

・各自が研究したいテーマやカテゴリの所にネームを貼る。

・10グループにまとめる。その際、師範大の学生や附属高校とのディスカッションをこの班毎に行うことを考慮する。

※クラスなかでは同じカテゴリにいくつもの班が集中しないよう配慮する。

※カテゴリが同じでもテーマは班別に異なること。

※班のメンバーは次の授業までに調整しても構わない。

○カテゴリ1
(テーマ) ○○○○○○の是非について

○カテゴリ2
(テーマ) ○○○○○○は必要かについて

○カテゴリ3
(テーマ) ○○○○○○の責任について

資料3

異文化研究「Taiwan Hour」に向けて

2015.1.9

1月末に台湾師範大学の教授及び大学生が、本校のSGHの支援・協力のために本校に来られます。その折、「Taiwan Hour」という形で、劉先生からご教授いただくとともに、諸君の異文化研究について台湾師範大学生とプレ・ディスカッションをします。3月19日には、現地に於いて、諸君の「異文化研究」について、台湾師範大学生、同附属高級中学生とディスカッションをします。プレ・ディスカッションはその練習でもあり、「異文化研究」修正の契機にもなります。

これからの3回(6時間)の授業はその準備に充てます。準備する事項は以下の1~3です。プレ・ディスカッションの方法は4です。また、ここで準備した内容は最終レポートにも使いますので、データ化しておいて下さい。

1. 研究のねらいと仮説(別紙様式)

①なぜ、このテーマの研究をするのか。(ねらい)

☆日本語で文章化

☆英語 要約(英文は、自分たちの英語力の範囲で、相手に伝わる表現であればよい。)

②仮説 c[科学的]方法 仮説→検証(実験・観察・資料やデータの分析)→結果・結論

・この事例を研究すると異文化のどのような面が見えてくるか

・この事例を研究すると日本文化が改めてどのように見えてくるか

☆日本語で文章化

☆英語 要約(英文は、自分たちの英語力の範囲で、相手に伝わる表現であればよい。)

2. 国内調査:文献・インターネット・アンケートで集められた事実・情報(様式なし・データ化)

①テーマに対して、日本と台湾の状況を比較するために、日本の事実・情報を調べる。

②文献・インターネットで集められる台湾の情報

☆分担して調査(日本語で文章化)

☆ポイント英語化

3. 質問事項

・ねらいと仮説の妥当性

・台湾での事実や事実に対する解釈などの質問事項

・現地調査箇所

4. プレ・ディスカッション

「Taiwan Hour」のプレ・ディスカッションでは、まず、本校生徒がA3の画用紙を用いて英語で発表し、英語で師範大学生とディスカッションします。2グループに台湾師範大学生1人が入ります。1グループ発表時間15分、質疑応答時間15分です。発表しないグループのメンバーも質問しても良いです。

資料2 「異文化研究」研究計画

2014年12月16日

<本日の目的>

・テーマの文言を整える。

・研究概要(どのような目的で、どのような内容の研究をしたいか要約する。百文字程度で)をまとめる。

・台湾師範大学の学生や師範高校生への質問をしたいか考える

※以上の三点について、台湾師範大学、師範高校へ伝えたいと思っています。そのつもりで本日のプリントは提出してください。今日中に提出できない場合、必ず今週中に提出して下さい。

1 C 班	班員:リーダー
グループテーマ	
カテゴリ	テーマ

1 研究概要(百文字程度。どんな目的で、どんな内容の研究がしたいか。台湾の学生が分かるように。)

2 論点および具体的な内容

テーマについて、異文化理解を深めるのにふさわしい論点を進めるために必要な論点・視点を考察し、それぞれの内容について具体的に明らかにする。(前回から引き続き議論を深めよう)

3 台湾師範大学の学生や附属高校生に対する質問項目(テーマ、研究概要と関連付けること。)

資料7

異文化研究 グループ発表評価用紙

3月28日(土)

1年 A 組 番 氏 名

◆評価の観点…以下の観点から評価コメントを作成してください。

- ①研究目的・方法の適切さ ②研究目的と分析の視点・研究方法が明確であるか。
③研究内容(論理性・説得力) ④研究方法に則った適切な調査・情報収集が出来ているか。

収集した情報に基づき、客観的な分析、まとめができるか。

③プレゼンの正確さ(表現力) ・スライドの見易さ。 ・説明方法や話し方、声の聞き易さ。

④チームワーク(協働性) ・役割分担…仕事が均等に割り振られているか。 ・互いに助け、

1 班	班員
テーマ	

〈資料4〉 台湾師範大学学生 金沢訪問事業 日程 学生用

月日	1 限	2 限	3 限	4 限	昼休	5 限	6 限	7 限	宿泊
	8:45～9:35	9:45～10:35	10:45～11:35	11:45～12:35	12:35～13:25	13:25～14:15	14:25～15:15	15:25～16:15	夕食
1月26日 (月)	台北—桃園—小松着18:20								金沢国際ホテル ※レセプション ディナー
1月27日 (火)		学校案内	Taiwan Hourの準備	※SGH Taiwan Hour A1	※Luncheon seminar	※SGH Taiwan Hour B1	※SGH Taiwan HourC2		金沢国際ホテル
1月28日 (水)	Taiwan Hourの準備 もしくはClass observation				Luncheon seminar	Free time			金沢国際ホテル
1月29日 (木)		Taiwan Hour の準備	※SGH Taiwan Hour A2	SGH Taiwan Hour A3	Luncheon seminar				金沢国際ホテル
1月30日 (金)		Taiwan Hour の準備	SGH Taiwan Hour B2	SGH Taiwan Hour B3	Luncheon seminar	SGH Taiwan Hour C2	SGH Taiwan Hour C3		角間ゲストハウス (Univ.GH)
1月31日 (土)						午後 13:00～ ※SGH市内巡検 (City excursion) (150分)			角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月1日 (日)	Free time								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月2日 (月)	終日大学にて、JASSOプログラム (ガイダンス)								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月3日 (火)		附属高校で授業参観				大学ガイダンス、JASSOプログラム			角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月4日 (水)	附属中学校				Luncheon seminar 1B	終日大学にて、JASSOプログラム			角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月5日 (木)	如月祭 (February festival)				Preparation for Teaching Demo (KU Student Final Presentation)				角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月6日 (金)	三馬小学校訪問 (大学JASSOプログラム)								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月7日 (土)	Free time								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月8日 (日)	Free time								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月9日 (月)	Preparations	Teaching Practice C1	Teaching Practice A1	Review	Luncheon seminar 1A	午後：JASSO大学プログラム			角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月10日 (火)	Preparations	Teaching Practice B1	Review		午後：JASSO大学プログラム				角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月11日 (水)	※SGH郊外巡検・白川郷 (180時間分)								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月12日 (木)			Preparations	Teaching Practice C2	Lunch	Teaching Practice A2	Teaching Practice B2	Review	角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月13日 (金)	大学にてJASSOのまとめのプレゼン お別れ会※								角間ゲストハウス (Univ.GH)
2月14日 (土)						13:00～ SGH日本文化体 験・和菓子づくり ・金箔工芸 (150時間分)		金沢出発 17:00—小松	

SGH
プログラム
 SGHプログラム
Taiwan Hour
 JASSOで附属高校
にいる時間
 JASSOプログラム
附属高校で英語の授業
 JASSOで大学に
いる時間

〈資料５〉 ラウンドテーブルディスカッションのタイムテーブル

Discussion between KUHS Students and HSNU Students

Thursday, March 19, 2015

Schedule

Activities	Times	Venue	Details
Welcome Ceremony	9:15- 9:30	South Hall	HSNU Principal welcome Kanazawa students
Discussion	9:45- 9:55	Lab	Self-introduction : Introduce yourself by speaking about your own name. (Each student and the facilitator have one minute)
	9:55-10:05	Lab	Kanazawa student gives a brief speech on the topic. (Each student speaks using a clip board)
	10:05-10:15	Lab	HSNU student gives a brief speech on the topic. (Each student speaks using a clip board)
	10:15-10:25	Lab	Q&A
	10:25-10:50	Lab	Students prepare for a 5-minute oral presentation and make a poster for the presentation.
	10:50-11:00		Break
	11:00-11:40	Lab	Oral Presentation
	11:40-11:50	Lab	Students fill in feedback sheet.
Lunch	11:50-12:30	Lab	HSNU students and Kanazawa students have lunch together in the labs.
Group Photo	12:40-12:50	South Hall	HSNU students and Kanazawa students take group pictures.
Farewell	12:55	East Gate	HSNU students bid farewell to Kanazawa students

〈資料６－１〉 ラウンドテーブルディスカッションのグループテーマ

Team A Subculture and Entertainment

	カテゴリ (category)	テーマ (topic)	本校グループ
1	スポーツ (sports)	スポーツの社会に対する役割 The role of sports in society	C-4
2	娯楽 (entertainment)	映画文化に対する価値観の違い Difference in movie culture	B-9
3	サブカルチャー (subculture)	海外におけるアニメ文化の広がり Popularity of Japanese animation in foreign countries	B-7
4	文化 (culture)	台湾のマンガ事情 Comic books in Taiwan	A-1
5	娯楽 (entertainment)	日本のゲームと台湾のゲーム Videogames in Japan and Taiwan	B-5
6	文化 (culture)	高校生のスマホ依存の現状の比較と、その分析 Analysis of high school students' addiction to smartphones	A-3
7	文化 (culture)	民族文化の保護と現代ポップカルチャー Protection of aboriginal culture and modern pop-culture	A-9

Team A Subculture and Entertainment members

Physics Lab 1 Supervisor: _____ Host and Timer: 王婷宜							
	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4	Group 5	Group 6	Group 7
Topic	The Role of Sports in Society	Movie Culture in Taiwan and Japan	Spread of Anime Culture in Overseas areas	Cool Japan & Manga culture in Taiwan	Differences between Japan and Taiwan in Videogames	Future career design for young people	Modern Pop Culture
Kanazawa	C-4	B-9	B-7	A-1	B-5	A-3	A-9
	Uchida	Miyamoto	Tamaru	Asada	Sakano	Imai	Madachi
	Tachibana	Shimokawa	Kurokawa	Nouka	Nagasato	Oyama	Shimizu
	Hashimoto	Segawa	Hashiba	Nobata	Hosokawa	Kimoto	Sekiguchi
	Higashino	Teramae	Uramae	Muramatsu	Matsuoka	Masuda	Dougishi
				Yoshita	Kaneda		Muranaka
Class 1345	David Chen	Micky Chien	Judy Hsieh	蘇芸萱	林雨耕	Michelle Wan	王宜晴
Class 1372	Amanda Wu	Belle Yue	Tina Cheng	iCeRiA Huang	Jason Nien	Ruby Ting	Jeff Chen
Facilitator	Yi Hsin Lin	Yi Ju Lin	Yu Hsiang Chang	Jen Young	Chiung Ru Tseng	Yi Fan Lin	Fang Yu Hsu

Team B Education and Food Culture

	カテゴリ (category)	テーマ (topic)	本校グループ
1	学習 (study)	日台の高校生活の理想と現実 High school life in Japan and Taiwan - ideal life and reality -	C-1
2	教育 (education)	台湾の教育制度を学び、日本の教育を考える Education system in Taiwan and Japan	B-1
3	教育 (education)	日本と台湾の英語教育の差異 Difference in English education between Japan and Taiwan	A-8
4	食文化 (food culture)	伝統料理の保護について Protection of traditional dishes	C-8
5	食 (food)	ファストフードについて Fast-food	A-4
6	食文化 (food culture)	日本と台湾の食文化の比較 Food in Taiwan and Japan	B-6
7	食文化 (food culture)	日本と台湾のアレルギー対策 Measure to food allergy in Japan and Taiwan	B-10

Team B Education and Food Culture members

Earth Science Lab Supervisor: _____ Host and Timer: 程芝榆								
	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4	Group 5	Group 6	Group 7	Group 8
Topic	Purpose of High School Education	Education System in Japan and Taiwan	Differences in English Education between Japan and Taiwan	Protection of Traditional Food	Fast Food in Japan and Taiwan	Food Culture in Japan and Taiwan	Allergy Prevention in Japan and Taiwan	Differences in Taste of Food in Japan and Taiwan
Kanazawa	C-1	B-1	A-8	C-8	A-4	B-6	B-10	A-7
	Murakami	Araki	Kokei	Kuribayashi	Ookubo	Seto	Murai	Tsurumi
	Yamamoto	Ishikawa	Kosaka	Nakagawa	Taguchi	Kawakami	Kawabata	Katou
	Hirayama	Nagura	Shoshi	Mochiki	Huruta	Satake	Masuda	Nakamura
	Koshida	Fujimoto	Hashimoto		Nakagawa	Terauchi	Yoshioka	Nakashima
	Abe				Toide	Yagi		Nitta
Class 1345	Rosemary Wang	Arthur Chen	Renn Li	Kevin Huang	Jack Liu	Jennifer Lin	郭哲銘	鍾芸芸
Class 1372	Yoyo Liu	Johnson Liao	Irene Chen	Vanessa Chung	Arthur Hsu	Emma Lee	Nicole Chang	Alan Huang
Facilitator	Pei Hsin Gu	Yen Yu Lin	Hsin Chun Yang	Yu Hen Jiang	Chun Chia Tseng	Yi Fang Weng	Po Hsuan Li	Ying Hsuan Lee

Team C Law, society and transportation

	カテゴリ (category)	テーマ (topic)	本校グループ
1	メディア (media)	日本と台湾のメディアリテラシーの違い Difference in media literacy between Japan and Taiwan	B-4
2	価値観 (value)	日本と台湾の防犯意識の違い Differences in thoughts on prevention from potential crimes between Japanese and Taiwanese	A-2
3	社会 (society)	死刑制度の是非 Do you agree or disagree with the death penalty?	C-5
4	環境 (environment)	日台でのペットのあり方から、文化・生活環境のちがいをピックアップしよう！ Let's identify the difference in culture and lifestyle by exploring Japanese and Taiwanese people's thoughts on pets.	A-6
5	環境 (environment)	環境保全と生活の快適さ、どちらを選ぶ Which do you choose, protecting the environment or comfortable life?	C-2
6	交通 (transportation)	交通面から考える日台文化比較 Transportation in Japan and Taiwan	B-3
7	社会 (society)	優先席の必要性和使い方 The necessity of priority seats and how people use them	C-7

Team C Law, society and transportation members

Physics Lab 2 Supervisor : _____ Host and Timer: 楊世綸							
	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4	Group 5	Group 6	Group 7
Topic	Health Care Systems in Japan and Taiwan	Thoughts on Crime Prevention	Perspectives on Death Penalty	Pet Culture in Taiwan and Japan	Environmental Protection in Daily Life	Traffic Condition in Japan and Taiwan	Priority Seats in Taiwan
Kanazawa	B-4	A-2	C-5	A-6	C-2	B-3	C-7
	Koura	Iida	Kawashima	Toyooka	Ishikawa	Kameda	Fukue
	Yotsui	Kubo	Okino	Ozawa	Kaneko	Sasajima	Kamiya
	Kitagawa	Genda	Uchide	Shimode	Narise	Hashimoto	Nakamura
		Horii	Tsujimoto	Nakatani	Nigauri	Maezono	Matsumoto
Class 1345	何濬騰	Ron Hsu	Alex Hu	Jannie Lai	Paul Chang	Eric Tsai	Lu
Class 1372	Rita Luo	Brian Chang	Sunny Tseng	Amy Chou	Thea Huang	Claire Lee	Jennifer Wu
Facilitator	Chia Man Zhang	Yu Ching Chen	Szu Jou Ho	Pei Yi Wei	Hsin Lien	Chen Chung	Yu Han Hung

Team D Value and Superstition

	カテゴリ (category)	テーマ (topic)	本校グループ
1	社会 (society)	ニートの防止と減少策を考える Prevention of NEET and reduce the number of it	C-3
2	社会 (society)	能力給と年功序列どちらが良いか Which do you think is better, pay for performance or promotion by seniority?	C-6
3	ジェンダー (gender)	女性の社会進出と家庭のあり方 Women's social advancement and their role at home	C-9
4	社会 (society)	大人の定義 Definition of 'adult'	C-10
5	価値観 (value)	日本と台湾の家族関係について Family relationship in Taiwan and Japan	A-5
6	心・価値観 (mindset, value)	TABOO (知らぬは恥) Taboo (Innocence is a shame)	B-2
7	文学 (literature)	日本と台湾の神様 Japanese God (s) and Taiwanese God (s)	B-8
8	価値観 (value)	色のイメージについて Image of color	A-7

Team D Value and Superstition members

Physics Lab 3 Supervisor : _____ Host and Timer: 陳悅翔							
	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4	Group 5	Group 6	Group 7
Topic	Causes of and Solutions to NEET	Wage Structures in Japan and Taiwan	Gender Equality in Japan and Taiwan	Definition of "Adult"	Family Relationship in Japan and Taiwan	Taboo in Japan and Taiwan	Religion and Values in Taiwan
Kanazawa	C-3	C-6	C-9	C-10	A-5	B-2	B-8
	Kitamura	Kosaka	Takeuchi	Maeda	Satou	Akao	Machida
	Ise	Kamata	Hasegawa	Muramoto	Kaneko	Uno	Takahashi
	Seryou	Nagai	Tsunezuka	Yasuda	Paku	Ootani	Nakayama
	Matsuyama	Yokoyama	Hachinoda	Yoshioka	Koshisaka	Okada	Michigami
	Yonebayashi		Yoneda		Ootani		
Class 1345	Helen Miao	劉子瑄	Sophie Lee	Linda Pan	Kelsey Chuang	邱筠文	蔡羽寒
Class 1372	David Chen	Grace Tu	Iris Huang	Zoe Chen	Emily Chu	Kathy Xing	Whitney Sung
Facilitator	Ying Tung Chou	Yu Ting Wu	Min Hsuan Liu	Shin Han Huang	Wen Chia Chang	Ya Wen Hsu	Ching Wen Wang